

# 教員及び技術職員の個人評価集計及び分析結果

2006 年度実績

総合情報基盤センター

平成 20 年 2 月

## 1 個人評価の実施状況

### 1.1 対象者数、実施者数

総合情報基盤センターの個人評価対象者は、教員 4 名 (教授 1、准教授 1、講師 1、助教 1) 及び技術専門職員 4 名である。個人評価は全員が実施した。

### 1.2 個人評価の実施概要

センター運営委員会の下に、センター長、副センター長 2 名及び運営委員会委員 1 名から構成される評価専門委員会を設置し、平成 20 年 2 月 18 日に、個人評価を実施した。平成 19 年度の委員は以下の通りである。

只木進一	センター長 (総合情報基盤センター教授)
竹生政資	副センター長 (医学部教授)
渡辺健次	副センター長 (理工学部教授)
後藤昌昭	運営委員会委員 (医学部教授)

実施にあたって、「活動実績報告及び自己点検・評価書」の書式ファイルの配布を行い、各自が記入し、提出した。技術専門職員についても教員と同一の書式を用い、「研究教育支援」の観点のみの記入とした。

## 2 評価領域別の集計・分析と自己点検評価 (教員分)

### 2.1 教育の領域

#### 2.1.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 教養教育科目 2 科目 (講義時間: 2×30 時間)、及び学内非常勤としての学部教育科目 4 科目 (講義時間: 4×30 時間) を担当し、適切に実施している。
- 3 名の教員が工学系研究科の専任であり、4 科目 (講義時間: 4×30 時間) を開講し、適切に実施した。
- 教育改善活動として、シラバス公開、講義内容及び資料の Web を通じた公開、例題や資料の配付、「ネット授業研究委員会」への参加を行った。
- 全教員が卒業研究の指導またはその補助を行っている。大学院担当の者は、大学院

生の指導またはその補助を行っている。

### 2.1.2 活動評価集計と分析

- 5段階評価の自己点検評点の平均は3.9であった。センターは、情報基盤関連業務を中心として活動するため、学部等に比べて教育負担は少ない。その教育担当部分については、適切に実施している。
- センターの業務と連動し、編入生、他大学からの大学院進学者、9月入学者などへの利用講習も行っている。

### 2.1.3 部局としての自己点検評価

- 教育担当部分については、適切に実施している。
- 情報技術を用いた授業改善活動への取り組みが行われている。
- センターの業務と連動した、非正規の教育活動も行われている。

## 2.2 研究の領域

### 2.2.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 全教員が、過去3年間に審査付き学術論文を発表している。
- 全教員が、過去3年間に口頭発表論文を発表している。国際会議への参加も活発に行われている。
- 講師以上の全教員が、学内他部局及び学外との共同研究を行ない、実績をあげている。
- 講師以上の全教員が、科学研究費補助金への応募など外部資金獲得の努力を行っている。継続的に科学研究費補助金を得ている者も居る。
- 多くの教員がセンターの業務と関連した研究テーマを持ち、実績を挙げている。

### 2.2.2 活動評価集計と分析

- 段階評価の自己点検評点の平均は3.9であった。センター業務と関連のある研究も活発に行われている。
- 研究業績向上への努力の余地がある教員が見られる。
- 科学研究費補助金などの外部資金獲得への努力の余地がある教員が見られる。

### 2.2.3 部局としての自己点検評価

- 各教員が背景として有する研究分野及びセンター業務と関連した研究が、全般としては適切に実行され、業績となっている。
- 研究活動やそれに伴う外部資金獲得について、努力の余地がある教員が見られる。研究活動活性化の方策が必要である。

## 2.3 国際・社会貢献の領域

### 2.3.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 2名の留学生を受け入れ、指導している。
- ほぼ全ての教員に、過去3年間の国際会議参加の実績がある。
- ほぼ全ての教員に、学内外の情報化支援の取り組み実績がある。
- ほぼ全ての教員に、学会や学外委員会へ活動への参加実績がある。

### 2.3.2 活動評価集計と分析

- 段階評価の自己点検評点の平均は3.5であった。全般としては、積極的活動が行われている。
- 地域貢献、国際貢献・交流活動に改善の必要な教員が見られる。

### 2.3.3 部局としての自己点検評価

- 全般として、地域貢献、国際貢献・交流活動が積極的に行われている。
- 地域貢献、国際貢献・交流活動に個人差が大きく、改善が必要である。

## 2.4 組織運営の領域

### 2.4.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 情報政策委員会、評価室、広報室、附属図書館運営委員会、地域学歴史文化研究センター運営委員会、ネットワ授業研究委員会での活動を行っている。
- システム更新に伴って、関連事務組織との調整を行っている。
- センター運営に関わる組織業務を全教員で分担して実施した。
- 外部評価を実施した。
- 第18回学術及び総号情報処理センター研究交流・連絡会議の実行委員会及び主査としての活動があった。

### 2.4.2 活動評価集計と分析

- 段階評価の自己点検評点の平均は4.3であった。小さな組織であるため、全教員で分担して組織運営を行っている。

### 2.4.3 部局としての自己点検評価

- 総合情報基盤センターは小さな組織であるが、全学の情報基盤の整備運用という重要な業務を負う組織である。そのため、全教職員の積極的な活動が不可欠である。
- 業務分担や役割の明確化が必要である。

## 2.5 その他の領域 (研究教育支援)

### 2.5.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 各種システムの開発に全教員が取り組んでいる。
- 各種システムの運用維持に全教員が取り組んでいる。
- 平成18年3月には、基幹システムの更新を実施した。この更新に全教職員が積極的に関わった。
- 学外の研究会やセミナーなどに参加し、積極的に情報収集が行われている。
- 学内、地域の情報化支援も積極的に行っている。

### 2.5.2 活動評価集計と分析

- 段階評価の自己点検評点の平均は3.9であった。全教育がシステムの開発、運用などに関わっている。学内や地域への情報化支援も積極的に行っている。

### 2.5.3 部局としての自己点検評価

- 全教員が、教育研究支援活動をおこなっており、評価できる。
- 業務負担の偏りがある。業務分担や役割の明確化が必要である。

## 2.6 教員の総合的活動状況に関する自己点検評価

- 少ない人数で大学の情報基盤を担う業務を負い、教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、研究教育支援の各領域において、概ね全教員が活発に活動をおこなっている。
- 人数に対して業務量が多く、教育と研究が十分に行えていないだけでなく、センターの業務も十分に行えなくなっているというコメントが記載されている。
- 業務のスリム化や負担見直しを行っているが、人員増などの対策も必要である。

## 3 評価領域別の集計・分析と自己点検評価 (技術職員分)

### 3.1 研究教育支援の領域

#### 3.1.1 評価項目ごとの実績集計と分析

- 全員が活発に研究教育支援活動を行っている。
- 技術職員の間で、システム開発、システム運用、利用者支援などを分担して業務を行っている。
- 学内に対する教育研究支援の他、センターの運営のための業務（予算決算などの事務作業、ホストマシン室環境整備など）も分担して実施している。

- 研究活動や科学研究費補助金への応募が特記されている。

### **3.1.2 活動評価集計と分析**

- 段階評価の自己点検評点の平均は4.3であった。全員が業務を分担しながら、積極的に取り組んでいる。

### **3.1.3 部局としての自己点検評価**

- 少ない人数で、大学の情報基盤の運用を行うとともに、利用者への支援を行っている。全員が活発に活動している。
- 人員増や待遇改善など、活動をより活性化させる方策が必要である。